

## はじめに

私は浜松で生まれ育った日系のブラジル人です。ブラジルに行ったのは人生で一度だけ、二歳の時です。それ以来、大人になってからブラジルに行き、自分の目で見てみたいという夢をずっと持っていました。大学一年生の時、卒業論文は、私が身近に感じているブラジルの日系社会について書くことを決めていました。ですが多くの本を読んでいくうちに、ブラジルに住む日系人コミュニティについてあまり知らないことに気づき、ますますブラジルに行きたくなりました。協定留学が再開されると聞いたとき、これはチャンスだと思いました。サンパウロ大学 (USP) は南米で最も有名である大学の一つであり、多くの日系人の学生や教授がいます。私は卒業論文の研究を含め、自分の“母国”のブラジルを知るためにサンパウロ大学に留学しようと決めました。

## 出発前準備・手続きについて

私はブラジルのパスポートしか持っていないため、日本からの留学生でも私は「ブラジル人」として入国しなければなりません。留学内定後、留学前の準備は書類から始まりました。新型コロナウイルスの影響でパスポート更新、納税者番号 (CPF)、選挙人登録証などを全て領事館のウェブサイトから発行しないといけませんでした。

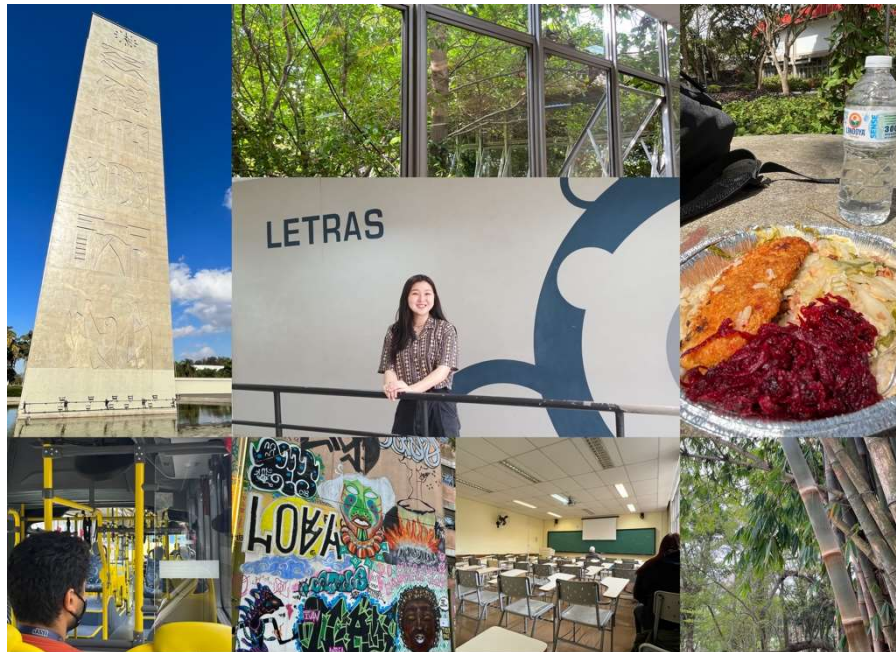
私がブラジル国籍の留学生であるために、サンパウロ大学側の手続きにいくつかの困難がありました。ですが、教務の方々、留学担当の先生が協力してくださり、無事に登録を終えることができました。本当に感謝しています。

また、ブラジル国籍ではない学生は、出発前に在ブラジル連邦共和国総領事館で学生ビザや納税者番号 (CPF) 準備することをお勧めします。ブラジルでは書類発行に時間かかることがあります。

## USP (サンパウロ大学) での生活

### ・授業面

8月15日から2週間、留学生たちは興味のある授業に自由に参加することができます。そして29日から31日までは履修期間です。そのため、8月は他の学部の科目を含め色んな授業に参加することもできて、とても楽しかったです。ただ、最初の週から、先生は急にオンデマンド授業にしたり、授業自体が無くなったりして、驚きました。ですが、ブラジル人の生徒は「授業ないならしょうがない、コーヒー飲みに行くか!」と生徒の間で自由に過ごします。私が履修した授業はポルトガル語がメインですが、中には英語で行われる授業もあります。



学内で撮った写真

キャンパスは大学都市と呼ばれるほど大きいため、移動は基本的にバスです。嬉しいことに、学生はバスを無料で乗ることができ、食堂では2レアル（約55円）で食べることができます。

・他の留学生

7月まで冬休みだった学生たちと同時に留学生の私たちも登校し始めます。留学生は世界の様々な国から来ています。本学と協定を結んでいる学部は文系のため、ブラジルの文学、歴史、言語に興味がある人がたくさんいて、ポルトガル語を積極的に使います。ほとんどの方はとてもフレンドリーで、「今日の天気いいね！」からでもすぐに仲良くなれます。



フランス人とイタリア人の友人と日本人街のリベルダーデに行きました

### ・シェアハウス

大学へ通うために、近くにある Republica (シェアハウス) に大家さんの家族と7人の学生・社会人と暮らしています。それぞれの生活もあり、帰宅する時間はバラバラですが、夜にみんなで集まっておしゃべりしたり、映画を観たりしています。

### ・週末の過ごし方

USP では週末は授業がないため、シェアハウスや大学の友人と出かけたり、叔母・親戚の家に行ったりしています。8月は盛沢山な月で涙が出るほど嬉しかったです。すごく会いたかった家族や友人に会えたことが、何よりも嬉しかったです。また、いろんなイベント、場所と美味しいご飯を紹介してくれました。



Feira (青空市場) で買い物。

日本から来たと知ったお店の人は食べたことない果物をたくさん試食させてくれました。

### 最後に

文化や習慣、生活の違いを実際に肌で感じることはとても面白いです。書きたいことは他にたくさんありますが、次回の報告書にしたいと思います。

この報告書を書いている途中に写真を見返してたら、あまり友人と写真を撮っていないことに気づきました(その分食べ物がすごく多かったです)。実はサンパウロはとても強盗が多いところです。友人や家族といる時でもなるべくスマホを使わないようにしたが、やはり思い出として残せるように意識し始めました。ですが、スマホを使わないおかげで、人と過ごす時間をもっと大事にすることができて、楽しんでます。